
名誉会員

松野隆一先生

ご逝去にあたり



去る 2022 年 4 月 10 日、日本食品工学会の名誉会員で元会長の、京都大学名誉教授、石川県立大学名誉教授松野隆一先生がご逝去されました。ここに、ご生前の長年にわたる本学会への多大なる貢献に感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

2022 年 5 月 20 日

一般社団法人 日本食品工学会
会長 井村直人

甲 辞

去る 2022 年 4 月 10 日、本会元会長・名誉会員、京都大学名誉教授、石川県立大学名誉教授の松野隆一先生が、享年 82 歳でご逝去されました。先生は、数年前に少し不調を感じ、加療を続けておられました。最近、治癒に向けて受けられた処置は順調で、退院後は、近所などを散歩することを楽しみにおられると伺っていましたので、悲報に接したときはたいへん驚きました。また、先生の葬送礼拝式は、現今の状況から、ご親族のみで執り行われ、最後のお別れができませんでしたことは残念です。先生には、学生の頃から 50 年以上にわたりご指導を賜ってまいりました。謹んで甲辞を捧げます。

松野隆一先生は、京都大学工学部をご卒業後、同大学院工学研究科に進学され、我が国に食品工学という学問分野を導入された先達のお一人である桐榮良三先生のもとで工学博士の学位を取得されました。京都大学工学部助手、岡山大学工学部助教授、King's College London ご留学ののち、1970 年に京都大学農学部食品工学科助教授に着任されました。当時は、我が国のバイオテクノロジー研究が新しい流れを迎えた時期で、先生は生物反応工学や生物分離工学の研究を始められました。そのための基礎となる生化学などを助教授室で夜遅くまで勉強しておられました。その姿勢から私たち学生は大切なことを学んだと思います。当初の生物工学的研究も食品を念頭においておりましたが、その後は食品を直接の対象とした基礎および応用研究を展開されました。その一部をお手伝いし、多くのことをお教えいただいたことは、私にとって大き

な財産であり、そのお蔭で今日まで大学教員として勤務できたと感じています。先生は、食品工学は目的達成型研究であるとの観点から、広範な分野の基礎知識の必要性、とくに物理化学などの基礎科学の大切さを重視しておられたと感じます。これは先生のもとを巣立ったすべての卒業生が感じ、糧としてきたことと思います。

松野隆一先生は、本会の前身である食品工学（特別）研究会の頃から我が国における食品工学研究の進展に深く関わってこられました。同研究会が独立した日本食品工学会へ移行するという大きな動きを先導され、初代および第 2 代会長として、その基礎を固められました。本会の活動の特徴の一つに、産業界の会員が中心となって情報交換等を行うインダストリー委員会があります。先生は食品に関する研究は、アカデミアとインダストリーとの交流がなくしては、その発展はないことを強調しておられました。その理念が、今日の日本食品工学会の活動の支えとなっていると感じます。

松野隆一先生は、教育・研究を通じた人材の育成のみならず、京都大学農学部長・大学院農学研究科長、ならびに石川県立大学長として大学運営を通じた人材育成と研究環境の充実にも大きく貢献されました。また、第 16 期日本学術会議第 6 部（農学）会員、ならびに本会をはじめとする多くの学術団体等の要職を歴任され、我が国の学術の振興に多大な貢献をされました。これらのご功績に対し、2015 年に瑞宝重光章の叙勲を受けられました。

松野隆一先生は、石川県立大学をご退職後は、散歩や読書を楽しんでおられました。小生の研究室のセミナーにご参加いただき、学部生や大学院生をご指導

いただきました。また、ある現象に対するモデルをお考えになり、それらを大学院生とともに、自ら組まれたプログラムで数値計算し、日本食品工学会誌などに論文として発表されました。学生にとってはたいへんよい刺激であるとともに、先生はお若い頃を思い出し、数値計算を楽しんでおられたと思います。今後とも、日本食品工学会の活動に留まらず、我が国の学術活動

全般について、高所からご指導とご鞭撻をいただけるものと思っておりましたので、誠に残念でなりません。

松野隆一先生、長きにわたり、ありがとうございました。こころよりご冥福をお祈り申し上げます。

2022年5月20日

日本食品工学会
元会長 安 達 修 二

ご 略 歴

1962年 京都大学工学部化学機械学科卒業
1967年 京都大学大学院工学研究科博士課程化学機械学専攻単位修得退学
1967年 京都大学工学部助手
1968年 京都大学工学博士
1968年 岡山大学工学部助教授
1969年～1970年 King's College London 滞在
1970年 京都大学農学部助教授
1984年 京都大学農学部教授
1994年～1997年 第16期日本学術会議第6部（農学）会員
1999年 京都大学農学部長・大学院農学研究科長
2003年 京都大学定年退職（京都大学名誉教授）
2005年 石川県立大学生物資源環境学部教授
2009年 石川県立大学長
2013年 石川県立大学退職（石川県立大学名誉教授）
2015年 瑞宝重光章叙勲

2000年～2003年 日本食品工学会会長

2002年度 日本食品工学会賞

「食品製造プロセスの合理的な設計法の確立に関する基盤的研究」